令和7年度 小中一貫教育構想図　　京都市立花背小中学校ブロック

小中一貫教育・京都市の5つの視点

①小・中学校で目指す子ども像を共有し、子どもたちの「生きる力」の育成を図る。
②教育課程（カリキュラム）の編成や指導形態の工夫・改善を図り、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成を目指す。
③子どもたちの教育活動の連続性を高める。
④小・中学校の教職員間の連携と協働を深める。
⑤家庭や地域との連携と協力をより一層推進する。

学校教育目標　「 確かな学力、豊かな心、健やかな体」を身に付け、次代を生き抜く子どもの育成

― 郷土を愛する子どもを地域とともに育てる ―　　」

・目標に向け、自ら学び、よく考え、進んで実行する子
・自然を愛し、郷土を愛し、人を愛する子
・心豊かに、集団や社会の中でたくましく生きていく子
・誰に対しても、思いやりをもって関わることができる子
・多様な他者と協働し、主体的に挑戦する子

⇩

児童生徒の現状と課題

・与えられた学習課題に対して真面目に取り組み、最後までやり遂げようとする姿勢が見られる。
・家庭学習の定着が十分とは言えず、自ら課題設定をして家庭学習をしていくための指導が必要である。
・話し合いを深めることや筋道を立てて説明することが苦手な傾向があり、自信や意欲などが低い実態もみられる。
・自己の目標を設定して主体的に学習していくことが苦手な傾向がある。
・系統的に地域学習に取り組むことにより、地域に誇りをもっている児童生徒が多い。
・上級生は下級生の面倒をよくみており、下級生は上級生を手本として学ぶことが多い。
・誰に対しても思いやりをもって接することができている。
・少人数の中で育ってきているため、人間関係が固定化する傾向がある。

⇩

めざす子ども像の実現に向けたつけたい力

「自律性・主体性」「多様性を尊重する態度」

⇩

めざす子ども像の実現に向けた取組・活動

・義務教育9年間を見通した小中一貫カリキュラムのもと、へき地小規模校の特色をいかした教育課程 （花背学習、金管バンド、ことば学習、そろばん学習、スキー体験等）を編成する。
・校務分掌や研究組織等、小中の教職員が一体となり有機的に機能する組織体制を構築する。
・理論研修や研究実践を通して、へき地教育ならびに小中一貫教育についての理解の深化と実践力の向上を図る。
・地域や家庭と連携・協働し、地域の未来を見据えた「地域ぐるみの学校づくり」を推進する。
・隣接する保育施設と連携・協働した取組を通して、「架け橋期」の教育の充実を図る。
・ICTの活用をはじめとした校務の効率化の推進、日々の業務の見直しを恒常的に行う。